

ママのビタミン

小児には小児用の薬を使用してください!

急な発熱、痛み、咳など子どもは急なことが多いですね。そんな時、大人用の薬しか手元に無いと「量を少しにして使えばいいだろう!」と安易に考えて子どもに与えていませんか?多くの親さんは、そんなことはしていないと信じています。

子どもは親のミニチュアではありません。単純に体重が軽く小さいだけではなく、薬の代謝、排泄機能がまだまだ発達途中です。そのため、薬の血液中の濃度の低下が遅く副作用のリスクが上がったり、成分によっては小児に特有の有害な症状が出る可能性があります。



◎大人の市販薬にのみ含まれる成分の一例*

◆アスピリン、サリチル酸ナトリウム 《かぜ薬や解熱鎮痛薬》

15歳未満 禁忌 = 副作用としてライ症候群

◆プロメタジンメチレンジサリチル酸塩 《かぜ薬》

2歳未満 禁忌 = 副作用として乳児突然死症候群、乳児睡眠時無呼吸発作

◆イブプロフェン 《かぜ薬、解熱鎮痛薬》

15歳未満 禁忌 = インフルエンザ脳炎・脳症への可能性

◆ジヒドロコデインリン酸塩、コデインリン酸塩 《かぜ薬や鎮咳去痰薬》

12歳未満 禁忌 = 副作用として呼吸抑制

◆アミノ安息香酸エチル 《乗物酔い薬、痔坐薬》

6歳未満 禁忌 = 副作用としてメトヘモグロビン血症

※同成分でも病状によって、医師が小児に処方する場合があります。

これらが入っている市販薬の添付文書(使用上の注意)には、服用できない年齢などが明記されています。ですので、覚える必要はありませんが、子どもに市販薬を飲ませる、使うときは、必ず小児用を選びましょう。良かれと思ってうっかり与えた大人の薬で、余計な副作用が起きないようにしましょう。

また、医療機関に受診して調剤された薬が余った場合は、受診したその人以外に与えないでください。他人に与えることは薬機法違反になる可能性もあります。



薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索